

青森大人手帖

自由に自然に大人らしく、ていねいに生活を楽しむ



子どもの手形と足形の土版。そこに愛がある。所蔵:手形(右) 青森県立郷土館 足形(左) 青森県埋蔵文化財調査センター

中央がお気に入りの笑う土偶。仲間はずっとミニミニサイズ。所蔵:青森県立郷土館



※3

メージを覆す高さ5cm(※3)の小さな子。手足は初めから作られていません。それなのにこの笑顔はどうですか。いつもポケットに入れておいて、つらくなくなった時にはそっと取り出して癒されたい、そんな気持ちにさせてくれます。



作られた理由は謎に包まれる。そこが土偶の魅力でもある。所蔵:三内丸山遺跡保存活用推進室

土偶を見る時のポイントは、「かわいい」「癒される」「なんかちょっと怖いかも」「これ、宇宙人じゃない?」と、思ったまま自由に楽しむことです。土偶を通して伝わる縄文人の温もりやユーモアに触れることができれば、まずはそれで充分です。

土偶は自由だ!



狩りの様子が描かれている土器。縄文人の物語がそこにある。



(上)(下) クマ形土製品 所蔵:青森県埋蔵文化財調査センター

青森県が取り組んでいる北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録。今回は、その縄文文化の魅力を一語一語に、「土偶女子」の譽田亜紀子さんに紹介していただきます。

今回のテーマ

土偶

Dogū

「なんじゃこりゃ!」から始まる、教科書に載らない土偶の入門講座。

※1 クマ形土製品。たまらないかわいらしさ。所蔵:青森県立郷土館



譽田亜紀子 こんだあきこ フリーランスライター&エディター、土偶を求めて全国を奔走し、現在「土偶女子」として活動中。



※2 奴唄っぽい十字形土偶。この凛々しい眉と鼻がいい。所蔵:森田歴史民俗資料館



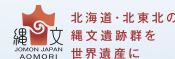
わずか3cmのクマ。頭のデカさがなんともかわいい。所蔵:縄文の学び舎・小牧野館



土偶界のボスキャラ 遮光器土偶(県重宝)。その瞳は何を見据えているのか。所蔵:青森県立郷土館

特別対談

「三内丸山遺跡って縄文のデパートなんです。」—岡田康博



縄文に魅せられた2人が語る 三内丸山遺跡の魅力。

譽田 デパートってどういうことでしょうか(笑)。岡田 これまで縄文遺跡では情報がポツポツと出てきて専門家向けの専門店みたいなものでした。それが一式揃って出てきたおかげでデパートみたいに一通りできるようになり縄文がより身近になったというわけです。

岡田 縄文文化は狩りや魚を捕り、食料を集めて定住生活ができたという、世界的に見てもめずらしい文化でした。その多くの情報が良い状態で見ることができるところに三内丸山遺跡のすごさがあるんですね。譽田 三内丸山遺跡の発見はわたしにとってはディープリバウトでした(笑)。どうせならもっとたくさんの人に見に来てほしいですね。今も周知活動はしているんですね? 岡田 世界遺産になるためには1年に1件しかない国の推薦が必要で、その1件になるためにいろいろ努力しています。難しい推薦書を作ったり。譽田 大変そうですね。岡田 さらに縄文をもっと面白く楽しく身近なものにしなければならぬと思います。縄文という言葉は知っているのに遺跡に行ったことがない人が多い。

譽田 遺跡って現場に行ってみると「楽しい」と感じることもあるんですね。岡田 縄文を知るにはまず遺跡に行こう(笑)。譽田 それすごく分かります。だれかが行くと今SNSが盛んなので拡散してもらえなくても知れない。それって大きいと思います。岡田 今まで縄文という専門書があってそれが情報発信源だったんですが、縄文は普通の人の生活だからいろいろな切り口がまだある。譽田 生活の場だったんですからね。岡田 三内丸山だけに価値があるのではなく、日本の縄文文化全体に価値があると思います。そのために三内丸山遺跡などが先頭を切って世界遺産にならないといけない。譽田 そう思います。ぜひ一刻も早くそうしたいですね。

●土偶女子 譽田亜紀子 ●ミスター三内丸山 岡田康博



Present! アンケートプレゼント

ハガキに必要事項をご記入の上、アンケートにお答えいただき、下記宛先までご応募ください。抽選で10名様に譽田亜紀子さんの著書「はじめての土偶」と「縄文まほろば茶(120g・1袋)」のセットをプレゼントいたします。

応募締切/2016年8月8日(月)当日消印有効 応募宛先/〒030-0802 青森市本町1-2-15 青森本町第一生命ビル

必要事項 日本原燃株式会社 地域・業務本部「チラシ」係 ①郵便番号/住所 ②氏名/年齢/性別 ③今回の内容は役に立ったか(はい/いいえ) ④裏面のモニタリング結果は見ましたか(はい/いいえ) ⑤今後知りたい内容があればご記入ください。

※当選は賞品の発送をもってお知らせします。お寄せいただいた個人情報賞品発送以外の目的には使用いたしません。



岡田康博 おかだやすひろ 1992年から三内丸山遺跡の発掘調査責任者となり、調査、研究、整備、活用を手がける。現青森県企画政策部世界文化遺産登録推進室長。



※2 縄文人のユーモアに脱帽、人面付土器。所蔵:青森県埋蔵文化財調査センター

なんでここに顔を付けたのか。

土偶って一体なんなの? 皆さん、唐突ですが、土偶をご覧になったことはありますか? 「もちろんあるさ! いや、ちやんのことだろ?」はい、その通り。ご名答でございます。青森県は世界に誇る遮光器土偶が発見された場所ですが、土偶とは何かと言いますと、縄文時代に土で作られた人形の焼き物をさします。その目的は未だ謎に包まれていて、狩猟、漁労、採集に恵まれるように祈ったり、安産を祈ったり、病氣治療を祈ったりする際の「祈りの道具」だったのではないかとされています。土偶の胸の中にしかありませんが、だとしたら、なんて優しい存在だったのでしょうか。そんな土偶たちに会いに行ってみることにしました。

小さくてかわいい土偶たち 私の大的お気に入り土偶に会いに、青森県立郷土館にお邪魔しました。と、その前に、動物を象った土製品たちにご挨拶をするため、展示室の2階へ。

じつは、縄文人たちは身近にいた動物を焼き物にしているんです。クマやイノシシ、中にはイヌの焼き物もあります。強い動物の力にあやかりたい、狩りの相棒であるイヌへの感謝の気持ちを表したいなど、作り手の気持ちが滲み出る動物土製品。その中でもこのクマ(※1)はかわいらしくて嬉りません。見て下さい、「がお」と口を開けたこの表情。強さなど微塵も感じない、つぶらな瞳に心を鷲掴みされまくりです。

そして「なんじゃこりゃ!」と絶対たまげるこの土器は必見。皆さん、目をよく凝らしてご覧ください。なんと、顔がついているじゃありませんか! (※2)

「なんでボク、ここにいるの?」と言いたげな表情で私を見つめるのです。後ろ髪を引かれつつ、お目当ての子に会いに1階「風韻堂展示室」へまいります。お気に入り土偶のイ